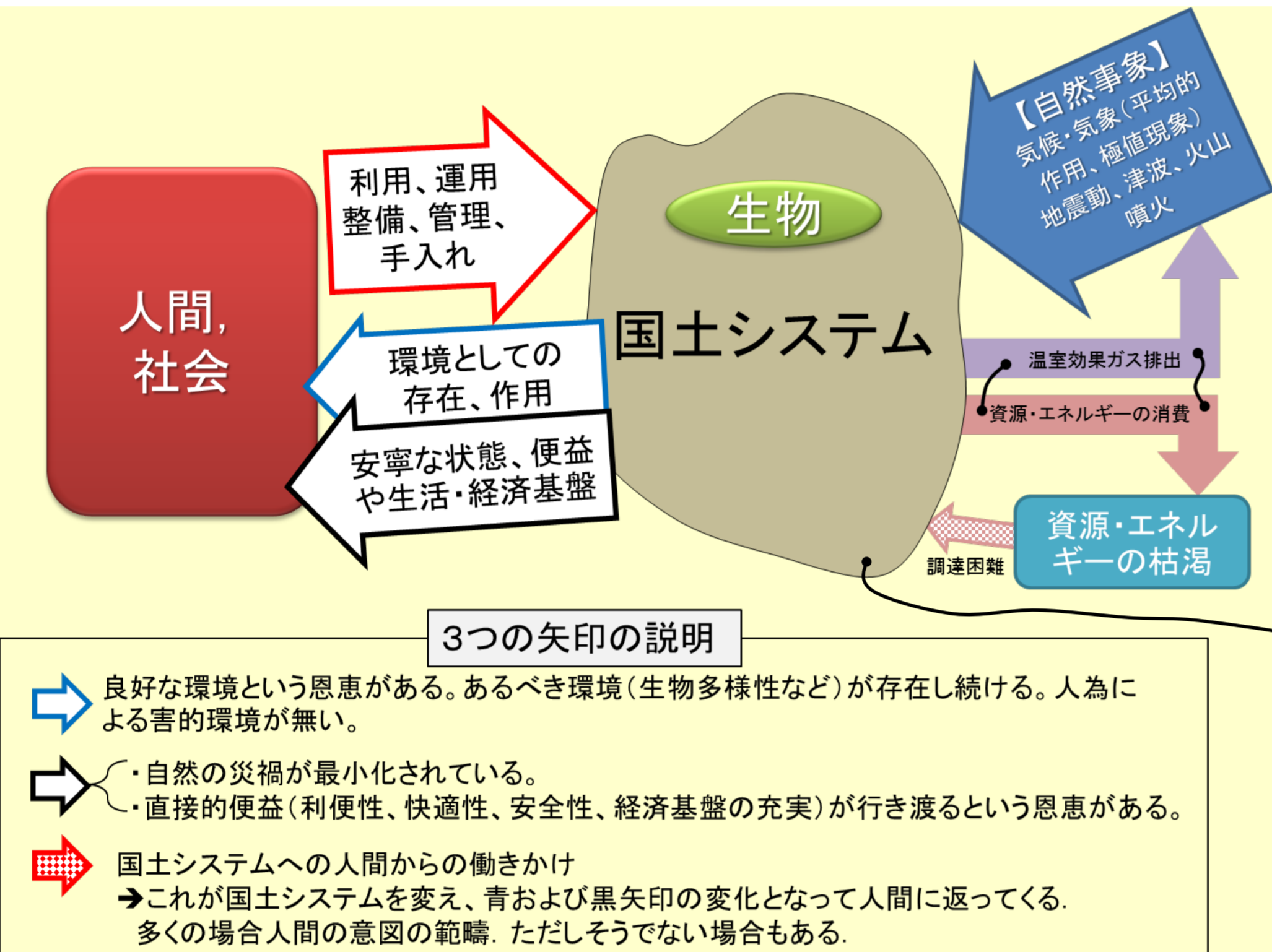


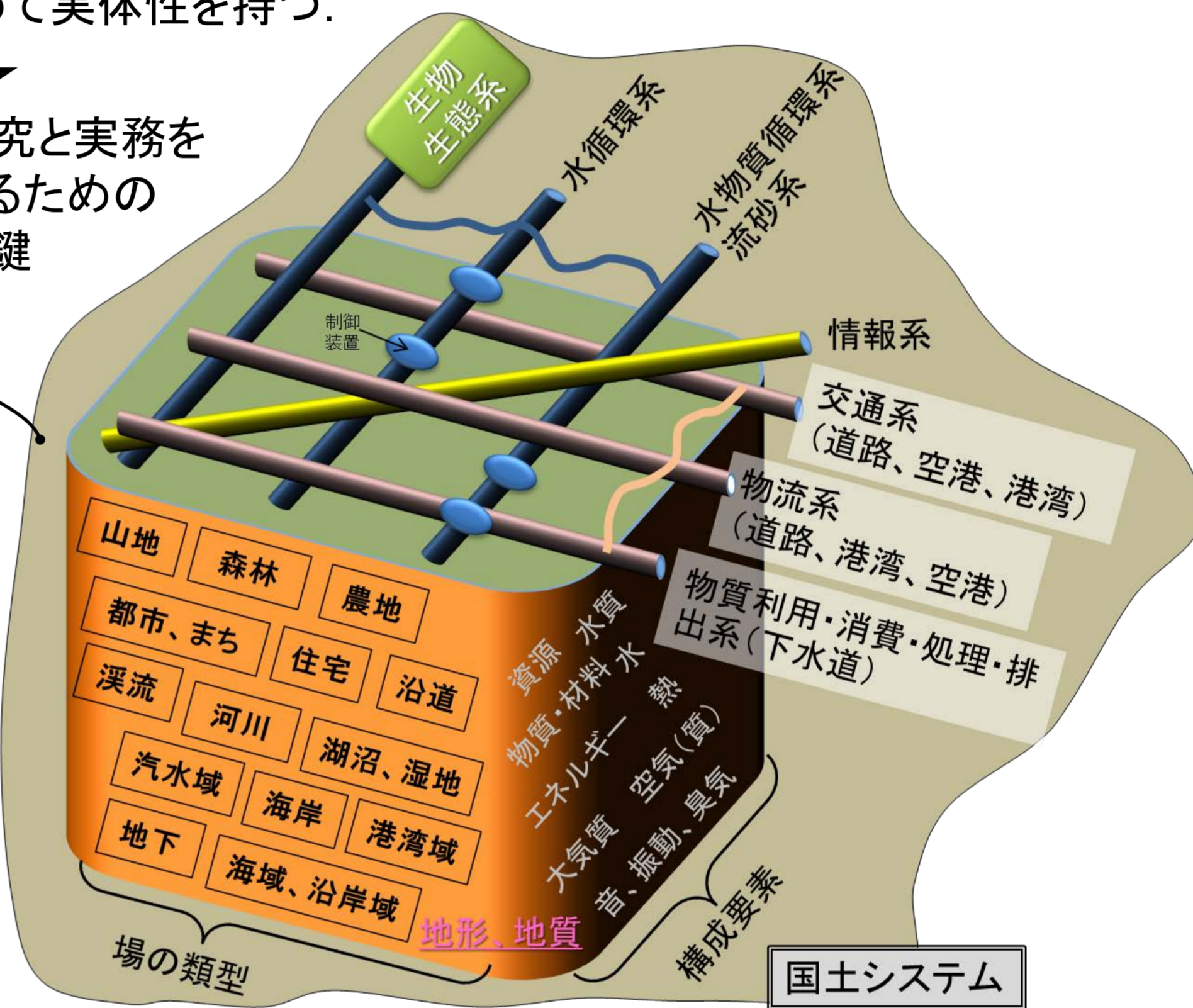
国土マネジメントという文脈でとらえた環境研究の俯瞰と進展

「人間・社会～国土システム間の相互作用」という視点から「環境」をとらえる



- ◆ 「環境」は、国土における自然・人工両面の場およびシステムの状態と人間との関係性という文脈でとらえることができる。
- ◆ 「環境」の質は、国土マネジメントの良否に相当程度依存。
- ◆ たとえば、環境保全・再生と大規模災害からの復旧・復興との共生を追求するための技術政策検討は、こうした捉え方を通じて、はじめて実体性を持つ。

環境研究と実務をつなげるための大事な鍵



このような捉え方の下、個々の環境研究の“位置”を俯瞰→他分野との関係や政策形成・実践との距離感、ひいては進むべき方向をより良く見通す。たとえば、

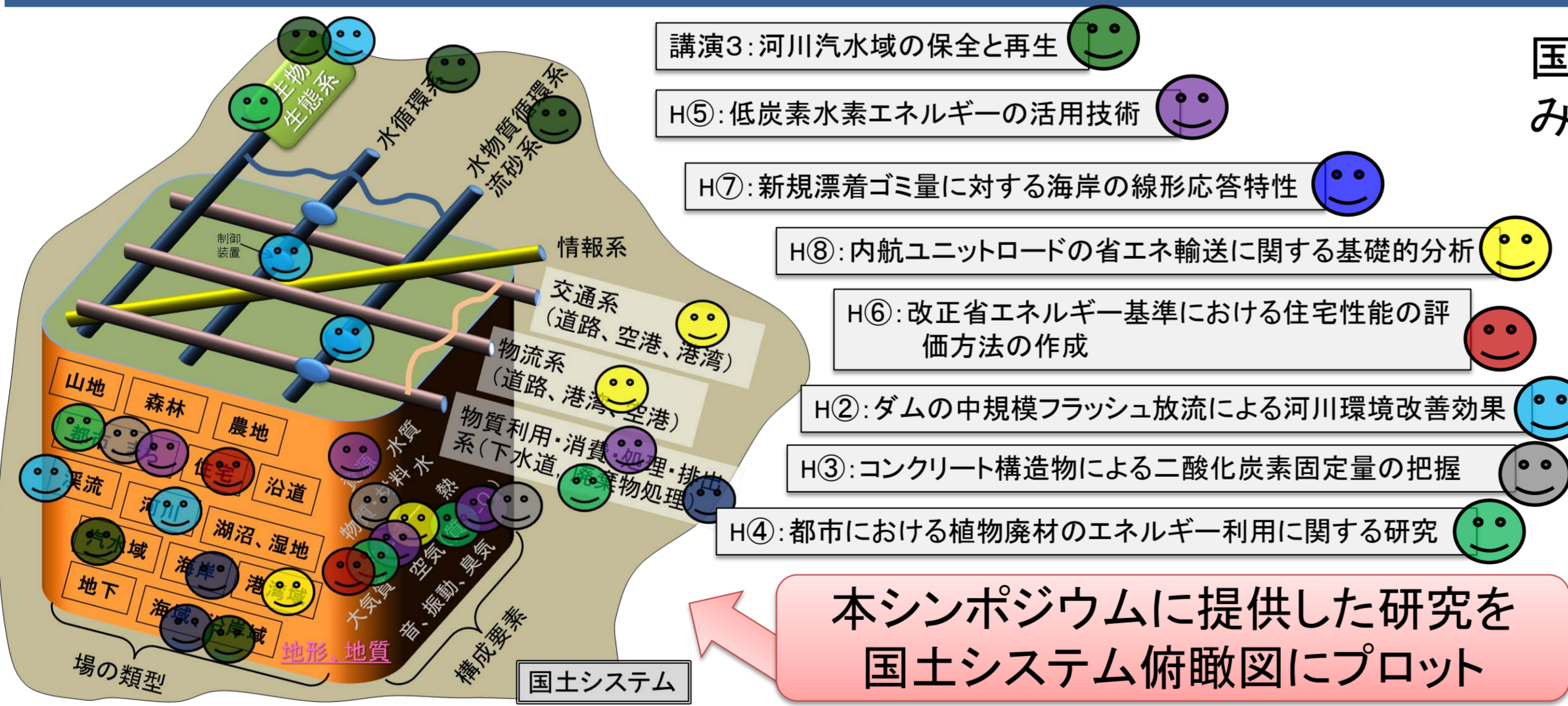
【基本的性格】 青矢印がどうあるべきかの研究(どういう環境が人間に必要なか?) / 青矢印をさらに良くするために国土システムをどう改善するかの研究 / それを黒矢印の維持・拡充と整合・調和・並立させるための研究(自然共生、環境保全と経済との両立)

【スケール】 人間周り(居住環境など) / まちのスケール / 一定の圏域 / 国土 / 地球規模

【主対象とする国土システム】 場 / 系 / 特定の制御装置 / 構成要素 / 人間との相互作用

【時間軸上の位置づけ】 劣化させた環境の再生 / 今後の劣化に対応する保全 / 長期的環境問題への対処における世代間公平の確保

個々の研究課題間の関係把握→総合的・包括視点の導入へ ～国総研の取り組みを例に～



国土システム俯瞰図に、現行の国総研における環境研究の取り組みをプロット - そこから見えてくる研究展開の方向性

- 国土の相当部分をカバー: 河川, 水循環, 建築・住宅, 沿岸・港湾, 道路交通, 都市・まちなどにまたがる。
- 場, 要素, システム(系)に関する共通項の存在⇒それをヒンジとして各研究・取組みが密接な相互関係を取り結ぶ。
- 場, システム(系)の情報, システム(系)の記述方法などを共有化することを通じた効率性向上, 触発関係の構築。
- 国土マネジメントをヒンジとして, 経済基盤の拡充や防災・減災の取組みとの統合化を図り, 相乗効果を追求するという道筋⇒環境研究と実務との橋渡しの強化。
- 環境研究を国土マネジメントというフレームに関連づけ, 環境の質を国土システムの改善を通じて全体的に向上させるという道筋。

国総研における最近の取り組み状況を、政策・研究目的に関連づけて整理

場	プロセス 環境教育 市民連携 合意形成	対応する政策、研究の目的又は効果									
		安全な生活空間 火災・事故の抑制	快適な生活空間 美しいまちと国土 環境共生	健康な生活空間 衛生的な生活空間 (媒体が液体)	健康な生活空間 衛生的な生活空間 (媒体が気体、個体)	交通・物流の効率化 や工夫による環境負 荷軽減	材料の耐用年数 アセットマネジメント 老朽化対策 長寿命化	新工機、新材料、新 たな供給、エコカー	生物多様性 代償措置 多自然型	大規模災害の 予測、防止、緩和、 避難、復旧、復興	地球温暖化対策 CO2削減、省エネ
河川											
海域/沿岸域											
汽水域											
空港											
溪流											
湖沼/湿地/ダム											
港湾											
山地											
住宅											
都市/まち											
道路/沿道											
里山/中山間地域											

➢ 手薄なパーツの把握を踏まえた新しい研究課題の発掘

☆) 国総研の全分野の研究について、環境に関わる課題への対応という観点から情報を包括的に整理・共有し、国総研としての環境研究の取り組みを一層明瞭に打ち出すことを目的として、本年5月に発足。

研究成果や技術支援情報などをお届けする
国総研メールサービスの登録はこちらから

環境研究推進本部 ☆) 藤田 光一, 福濱 方哉, 本多 直巳,
岡本 修, 角湯 克典, 栗原 正夫

本部HP ↓

<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/mailmag/>

http://www.nilim.go.jp/japanese/organization/k_honbu/indexkankyoku.htm